

読者想定法を使用した説明的文章の指導：「フリードルとテレジンの小さな画家たち」の読者反応に着目して

著者	足立 幸子
雑誌名	人文学教育研究
巻	43
ページ	15-27
発行年	2016-08-18
URL	http://hdl.handle.net/2241/00149250

読者想定法を使用した説明的文章の指導 ——「フリードルとテレジンの小さな画家たち」の読者反応に着目して——

足 立 幸 子

1. 研究の経緯と問題の所在

説明的文章を読むことの指導は、文学的文章と対置させる形で国語科教育における読むことの指導の一つとして扱われてきた。説明的文章には、説明文・解説文・記録文・報告文・論説文・評論文など様々な文種（ジャンル）があり、それぞれのジャンルの性質に応じた指導が求められている。

『国語科重要用語事典』（明治図書、2015）には、説明的文章である「120記録・報告」「121説明・解説」「122論説・評論」などの項目が設けられている。この中で「121説明・解説」の項目を執筆した寺井正憲は、説明的文章の学習指導の課題について、

説明的文章の学習指導には、メディア・リテラシーに通じるものがあり、メディア・リテラシーと連動した学習指導や教材の開発が望まれる。また、実生活で生きて働く力として読書生活を前提にした説明や解説の本や文章を活用する読書活動の学習指導の開発が望まれる。
(寺井、2015, p. 135)

と述べている。筆者も寺井と同じ課題意識を持ち、実生活で生きて働く力として読書生活を前提にした読書指導法を開発しようと試みている。その一つが読者想定法である。

読者想定法は、アメリカの研究者 Jean Anne Clyde に触発されて、足立幸子（2015, 2016）が開発している読書指導法で、寺井の指摘につながる学習指導法である。なぜなら、読者想定法では、そのテキストが現代社会においてどのようなメディアに掲載され、どのような人が目になることを考えた上で、そのテキストを読む姿勢を形作って読む方法であるからである。読者を想定することは、文学（韻文である詩や古文・漢文も含めて）でも行えるが、現代社会において様々な環境・メディアにおいて生み出されているテキストとそれを消費している読者との関係を考えて、特にノンフィクションが重要であると認識している。ノンフィクションとは、フィクションではないものの意味で、文章に限らず多様な形態・媒体（メディア）において使用できる。そこで、本発表では、文章に限らないことを強調するために、ノンフィクションという言葉を用いたい。ただし、教科書掲載の文章については「説明的文章」を使用するものとする。以下、足立(2016)より、読者想定法の「(1)目的」「(2)原理」「(3)意図されている学習者」「(4)手順説明」「(5)意義と議論」を引用する。

(1) 目的 (Purpose)

読者想定法の目的は、現代社会においてノンフィクションを読むという行為がどのような行為なのか児童・生徒に気づかせる経験を与えることである。形骸化した説明的文章指導に代えて、情報社会・知識社会の現代にあってノンフィクションを読むということの意味と方略を学習させようとしている。

(2) 原理 (Rationale)

国語科教育の中で、読むことの指導論は、作者が何を伝えようとしてそのテキストを産出したのかをとらえようとする「作家論」、作者が何を意図したかはともかくそのテキスト（作品）が何を表しているのかをとらえようとする「作品論」、作者や作品が何を伝えているかはともかく読者がそのテキストから何を読み取るのかに重点を置く「読者論」の三者を軸にして推移してきた。この読者想定法は原理として「読者論」を基礎とするものである。読者論には、テキストを読む行為における読者の役割に着目するものと、読者が読む際の状況に着目するものがあるが、読者想定法は後者の原理を生かしている。どのような状況においてどのような立場の人がどのようなメディアを通してその読書材を読むかに焦点をあてている。

上述の読むことの指導論は、特に物語・小説などの文学（フィクション）を中心に発達してきた。ノンフィクションについては誰がどのような状況においても読む内容は同じと考えられ、読みの客観性が強調されてきた。しかし、ノンフィクションについては、「筆者想定法」など、筆者（作家）の認識や思想・書きぶりなどに着目する指導論が開発されてきている。読者想定法は、そのような作者の側に焦点を置く従来の指導法ではなく、ノンフィクションで読者の側に焦点を置く指導法である。

また、読者想定法は、書かれている内容ではなく、読者が置かれている状況に焦点を当てるので、読者の既有知識や価値観との関係から読むという行為に着目する。このことから、批判的読み（OECDの国際学力調査PISAの読解力の枠組みでは熟考・評価にあたる）を行う読み方であると言える。

(3) 意図されている学習者 (Intended Audience)

小学校5年生以上の国語科授業でノンフィクションの読み方を学ぼうとする学習者を意図している。

(4) 手順説明 (Descriptions of the Procedures)

- ①ノンフィクションの読書材を、まずは、児童・生徒の立場で読み、感想を持つ。
- ②グループでどのような読者がその読書材を読むか、想定できる読者のリストを作る。
- ③対立した人物をグループの人数分選び、それぞれ一人ずつを担当することにする。担当する一人を「想定読者」として、プロフィール等を作る。

- ④想定読者の反応を書き込んでいく。
- ⑤グループで想定読者のプロフィールと反応をシェアする。
- ⑥「想定読者」としての読書経験を振り返り、感想を書く。

(5) 意義と議論 (Cautions and Comments)

読者想定法の意義は、「原理」としても述べたように、ノンフィクションを読書材としながらも「読者論」に焦点をあてた読み方を実現できることにある。生の読者自身の読み方ではなく、想定した読者を扱うことで、多様な読みを体験したり、読むということの仕組みについて理解したりすることができる。また、情報社会・知識社会における読書について、メディア・リテラシーの観点を踏まえながら体験することができる。

しかし、読者想定法では、読者の既有知識の量・質や価値観によって、読み方が限定を受ける。想定した読者の立場で読者反応を書き出すことで、自分の知識不足を感じたり、もっと読みたいと多読への動機付けになったりすることがある。一方で既有知識の不足から、十分に読むことができなかつたり、誤解であったとしてもそれを修正することができなかつたりする場合がある。

(足立, 2016, p. 134)

このように読者想定法を構想し、どのようなメディアに掲載されたノンフィクションを読む時に、読者想定法を使用した指導が有効であるか、検討を重ねているところである。

意図されている学習者を小学校5年生以上と設定しているので、小学生にもこのような方法は可能であるか確かめたい。しかし、小学校の教師の中には「文学的文章であれば、読み手によって読み取る内容が異なってもよいが、説明的文章では読み手によって読み取る内容が異なってはいけない」と考える者がいるようである。そこで、ノンフィクションのテキストであっても、読者によって読み取る内容が異なることを分かりやすく小学生に経験・学習させる方法として、この読者想定法を開発していきたいと考える。そのためには、ノンフィクションのテキストの中の、どのようなジャンルにおいてはこの読者想定法が有効であるかを検討していく必要がある。

これまでの研究では、ノンフィクションとして、いじめ自殺を扱った新聞記事(足立, 2015)、「明治産業遺産」の世界遺産登録を巡って日本と韓国が対立していることを伝える新聞記事及びサミットの開催都市決定の新聞記事(足立, 2016)を取り上げた。いずれもインターネット上の新聞記事であり、ジャンルとしても事実を伝えるタイプである「説明文」に偏っていた。また、新聞記事自体はもともと大人を読者として書かれており、実験を行ったのも大学生であった。そこで、本研究では、異なるメディア、異なるジャンルのノンフィクションを取り上げ、そのメディア及びジャンルでも読者想定法は有効か、またこの方法は小学生でも有効かを明らかにすることを目的とする。

2. 研究の方法

(1) 調査で使用するテキスト

本研究で使用するテキストは、学校図書の平成27年度版小学校国語教科書6年上に掲載されている説明的文章「フリードルとテレジンの小さな画家たち」である。原典は、野村路子著『テレジンの小さな画家たち—ナチスの収容所で子どもたちは4000枚の絵をのこした—』（偕成社、1993年刊）である。内容は、1943年から1944年にかけて、ホロコースト下にあったチェコスロバキアのテレジン収容所にて、うちひしがれているユダヤ人の子供に生きる力を持たせるために、フリードル＝ディッカー先生が、見回りのドイツ兵の見回りの目を盗んで、絵の教室を開いていたというものである。

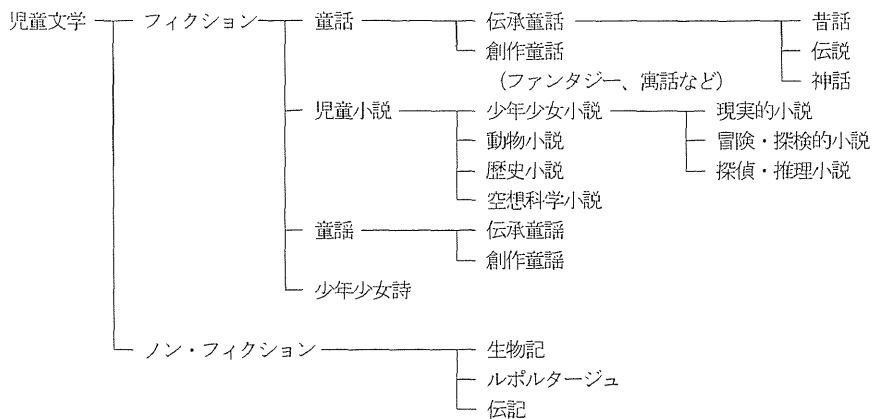


図1 金沢みどりによるジャンル図

金沢みどり (2011) p. 48 より

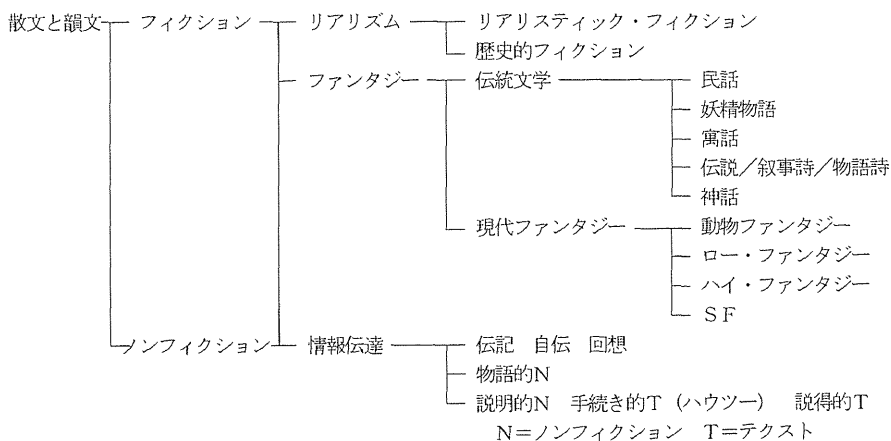


図2 Fountas & Pinnell によるジャンル図 (マスター図)

Fountas & Pinnell (2012) 見返しをもとに作成

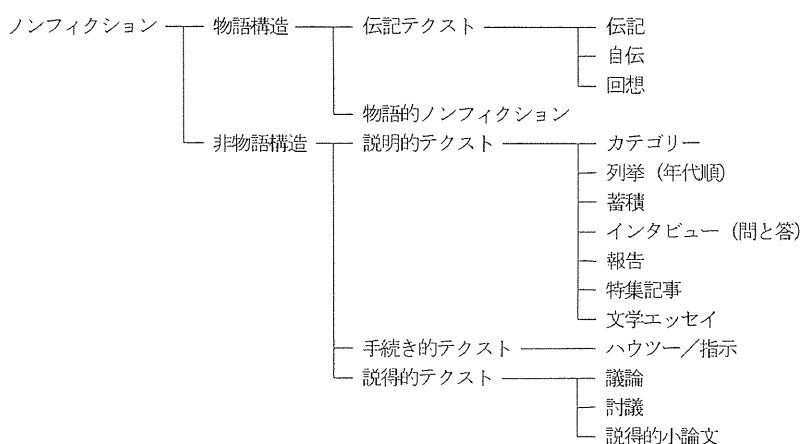


図3 Fountas & Pinnell によるジャンル図 (ノンフィクション)

Fountas & Pinnell (2012) p. 129 をもとに作成

この教材は、教科書中に〈ノンフィクション〉と明示されている。図1は学校図書館司書教諭科目用の本に示された金沢みどりによるジャンル図である(金沢2006, 金沢2011)。これによると、ノンフィクションは生物記、ルポルタージュ、伝記の3分類になっている。この中では調査で使用するテキストはルポルタージュにあたるが、この分類では多くのノンフィクションがルポルタージュに入ってしまう。そこで、アメリカの研究者 Irene C. Fountas と Gay Su Pinnell が提唱しているジャンルに基づいた読書指導法の著書“Genre Study”を参照することにした。図2はこの著書の見返しに書かれたジャンルのマスター図である。さらにノンフィクションのジャンルについて細分化した図(図3)を参照する。これによると「フリードルとテレジンの小さな画家たち」は「物語的ノンフィクション」にあたり、新聞記事の「説明的テキスト」とは異なるジャンルであると言える。

平成23年度版の教科書では6年下に掲載されており、「8 考えをふかめよう」という単元名で「起きたことをとらえ、自分の考えを持とう」という学習目標が設定されていたが、調査で使用する平成27年度版では「4 読書を楽しもう」といういわゆる読書単元に位置付けられており、ノンフィクションの読書指導法を探究する本研究の目的にかなっている。また同じ著者は、この内容が教科書教材になった後に、同社の教科書を使用していない子どもたちにも読んでほしいと、この内容を補足する著書を刊行している(野村, 2011)。これらのことから、多読につながっていく可能性が示唆され、ノンフィクションの読書指導法として適切な説明的文章教材と考える。

(2) 調査の方法

本研究では、小学生調査と大学生調査を行う。

小学生調査では、学級担任によって国語科の「フリードルとテレジンの小さな画家たち」の授業を行う。本研究では、子どもの読者反応に関心があるので、読者をどのように想定したか(「A 想定読者」とする)、選択した想定読者の読者反応はどのようなであったか(「B 読者反応」とする)、

話し合った後この読者想定法という方法についてどのように感じたのか（「C振り返り」とする）の3点について調査する。

大学生調査は、補助調査である。小学生と同様の調査を行い、小学生の調査結果が、このテキストの特性によるのか、小学生という学齢によるのかを判断する。

3. 調査の概要

(1) 〈小学生調査〉の概要

①日時 平成27年9月3日～15日

②対象 A市立B小学校6年2組23名、1班3～5名の6班編成

③調査方法

「1. 研究の経緯と問題の所在」で示した「(4)手順説明」のとおり、6つのステップに基づいて、学級担任が指導する。②で作成された想定した読者のリスト（A想定読者）、③の想定読者及び④吹き出しに書き込まれた読者反応（B読者反応）、⑥で書かれた感想（C振り返り）が、調査の対象である。欠席の関係で、B読者反応の提出者は22名、C振り返りの提出者は20名である。

(2) 〈大学生調査〉の概要

①日時 平成27年10月19日

②対象 C大学教育学部3・4年生6名、1班編成

③調査方法

前述の「(4)手順説明」のとおり、6つのステップをふむ。ただし時間の関係上、①の自分の感想は書かない。②の想定した読者のリスト（A想定読者）、③の想定読者及び④吹き出しに書き込まれた読者反応（B読者反応）は紙で、⑤交流の様子及び⑥の振り返り（C振り返り）はビデオ記録とする。

4. 調査の結果

(1) A想定読者

「この作品の本が店頭に並んでいるとしたら、どんな人が手にとって読むだろうか」という課題を提示し、小学生・大学生に「読みそうな人」を挙げさせた。小学生はのべ22人の読者を想定しており、多少班によって差はあるが、概ね1名あたり2人の読者を想定できていた。表1に、小学生の想定読者のリストと、その想定をした理由を示す。これらの理由は、学級担任の発問に対する解答として出されたものであるが、それぞれにどういう読者がどのような場合に、この本に出会うかを小学生が想像できていることが分かる。

一方、大学生の調査では、大学生6名で24人の想定読者のリストを作成した（表2）。小学生調査と重なる人物の他に、編集者、作家、評論家、画材屋、政治家、難民、ヨーロッパ人歴史人、武器職人を挙げており、より幅の広い読者を想定していることがうかがえる。

表1 小学生による想定読者リスト

	想定した人物像	その理由
1 班	静かで読書好きな子ども 学生（高校生か大学生） 戦争関係の人（2名） お年寄り（70～80歳くらい）	この本のイメージが静かな人で読書好きだったから。 戦争の歴史を知るため。 戦争をすると、どんなことになるかを知るため。 人生を振り返るため。
2 班	戦争を知っているお年寄り 戦争に興味がある人 歴史好きで本が好きな人 お年寄り（70～100歳以上?）（2名） 戦争法案反対の人 漫画家 学生（中高大学生）	自分達も戦争のことを知っていて、悲しいことを知っているから。 歴史に興味があって勉強しているから。 歴史に興味はあるし、本が好きだから。 昔の戦争を知っているから。戦争を経験しているから、外国の戦争も知ってみたいと思うかもしれないから。 戦争をすると、こうなってしまうというのを知らせたいから。 特集でテーマが戦争だったとすると、情報や出来事を調べたりするから。 本で読んで学んで、後世には「昔はこんなことがあったんだ」と伝えるかもしれないから。
3 班	本が好きな人 戦争をしていた時代に生きていた人 戦争関係を勉強して興味をもった人 アウシュビッツに興味をもった人（戦争について学びたい人） お年寄り（80代～90代） 戦争をしたことがない人（大学生）	本が好きな人は興味をもって読むと思ったから。 こんなこともあったなと思い出して読むと思ったから。 詳しく知りたいと思って読むと思ったから。 アウシュビッツではどのようなことをしたのか、興味をもつ人もいると思ったから。 戦争をしたらいけないよと子どもや孫に本を読んで言いそうだから。 戦争はどんなにひどいことか知ってみたいと思う人が読むと思うから。
4 班	戦争などを調べている人 フリードルの教材文を学習した人 戦争時代のお年寄り 戦争を知らない人 歴史が好きな人 戦争に興味がある人	調べていることが進むと思ったから。 読みたいと思うと思うから。 日本でも戦争があったからほかの国はどんなことをしているのかをしてみるためだと思ったから。 戦争がどういう恐ろしいものだったかを知ることができるから。 日本以外の国の歴史が知りたいのかなと思ったから。 日本の戦争とは、どういうふうに進んだのかを知りたいのかなと思ったから。
5 班	フリードルに興味をもった人 戦争を研究している人 仕事などがあまりうまくいかない人 戦争に興味がある学生 当時の少年兵 絵を描くことが好きな人（画家） この教材文（フリードル）を学習した小学生やその先生 戦争を経験した人（おじいさん・おばあさん）	この本を見たときに、どうなのだろうと疑問をもって読むと思った。 どんな生活をしていたのか、どんな人物がいたのかを知りたい人がいそうだから。 フリードルのように明るい人になりたいと思うと思うから。 自分達も戦争を知らないから、どんなことがあったかを知りたいと思うから。 同じ年ぐらいの人がこんなにひどいことをされたと思うから。 もし、本の表紙に子どもたちが書いた絵が載っていたらどういいう経緯でこの小さな画家たちが誕生したのなぜかと考えると思うから。 教科書より詳しく書いてある本に興味をもつと思うから。 原爆とはちがうけれど、大事な人をなくしたり、つらい思いをししたりして興味をもつと思うから。
6 班	戦争に詳しい人 心のやさしい人 子どもをもつ大人・父母（2名） ユダヤ人・または関係ある人（2名） 戦争を研究している人 戦争を経験している人 戦争で身近な人を亡くした人 教師 歴史が好きな小中高大生	戦争に詳しくたら手に取るはず。 かわいそうだと思い、手に取るはず。 自分の子どもに昔の子どもの過酷さを伝えるため。子どもに昔のことを語るため。 実際に経験していて、本にどのように書いてあるかを確かめるため。友達などを殺されていたらその人の思い出を思い出せるから。 外国の戦争について知りたいから。 戦争のつらさを分かっているから。 友達・家族をなくすつらさが分かるから。 いろいろなことを教えたいという思いがあるから。 昔のことを知りたいと思っているから。

(○=選択した想定読者)

関 係 者	非 関 係 者			
フリードル先生	小学生（日本）	教育の人	戦争してた人	作家
生きのこった子たち	小学生（ドイツ）	先生（小学校）	○戦争に反対している人	評論家
紙おくった人	○小学生（ユダヤ）	○お母さん（日本）	○政治家	○編集者
ヒトラー	J K（日本）	ヨーロッパ歴史人	画材屋さん	○軍人（ドイツ以外）
	画家	難民		武器職人

(2) B 読者反応

B 読者反応のワークシート例を図4として示す。ワークシートには、5つの欄がある。1つめ中央部分で、読者として想定する人物のプロフィールである。ここでは、人物の絵を上部に描き、その下に名前、年齢、性別、職業、出身地、性格を書く。残りの4つは、その想定読者が読んだ際の読者反応を書く欄である。左上が1・2の場面、左下が3・4の場面、右上が5の場面、右下が6・7の場面を読んだ後の反応を示す欄で、心で思ったことを示す吹き出し(thought bubble)の形にしている。この例は、A 想定読者のリストでは「戦争を経験した人」としていたものをもとに、プロフィールを想像していったものととらえることができる。同じ「戦争を経験した人」であっても、少年兵だった人やヒトラーなどとは異なる読者を想定している場合もあった。この例を含む5班の想定読者のプロフィールと読者反応を表3に示す。小学生は、戦争の加害者を設定した際に、極端な悪者としての反応を書くことが認められた。

[illegible]

図4 ワークシート記載例（小学生調査）

表3 想定読者のプロフィールと読者反応（小学生調査5班）

リストの人物	○戦争を経験した人（おじいさん・おばあさん）	○戦争を経験した人（おじいさん・おばあさん）	○絵を描くことが好きな人（画家）	○当時の少年兵
想定する人物（プロフィール）	中澤カヨ、80歳、女、現在無職（元農家）、広島、・やさしくて心が広い。（いつもニコニコ）・でも、少しさみしがりや。・いまでもピンピン元気。・戦争を経験した時の年は、10歳で、父・母・姉を亡くしている。・結婚して子供もいる。・人の気持ちを理解する。	名無し、76歳、女、保育士（園長）、ドイツ、・やさしい。・明るい。・めんどろみがいい。・表現力がうまい。	大倉さくら、30歳、女、画家、たねがしま、・やさしい・絵が上手・こまっている人がいたらすぐたすける。・しずかにしているのが好き・本をよむのが好き。（どくしん）	エリザベア・アルガー、86歳、男性、無職（元工場長・元少年兵）、ドイツ、・ふだんはおとなしく、やさしい。・ズルはせず、地道な努力を好む。・誰にでも心が広い。・頭は良い方ではない。・ちょっとやさそこらでは心が折れない。・体には戦争で受けたきずが多数。・戦争で最愛の妻を無くす。
1・2の場面	・ドイツにも「親からはなされた。」私と同じような体験をした人がいたのだな。／・子供お大人もユダヤ人はとてもひどい差別を受け、ひどい労働をさせられて、ひどく心がつらかったのだろう。	命がけで絵の教室を開らくなんて、フリードル先生ってすごいねえ。子ども達もこの食事の量…つらいだろうおに。	・子供たちがかわいそう…／・命がけでフリードルにかんどう。／・「ヒトラーひどい。ゆだや人でだけなの。」／・はたらかせられてかわいそう。／・ごはんもすこし	今思えば、実際わたしと同じ年だなあ。／わたしも死にそうない思いをしたが、この子達はずっと死にそうない思いをしていたのだなあ。わたしは梅やむぞ。ヒトラーが「大統領」になったことを…。
3・4の場面	・子供たちはフリードルさんがいてくれたから、やみに包まれていた心に少しは光が差し込んだのしょう。この本から子供たちの笑顔が見えてくるような気がする。／・フリードルさんも母を亡くし、収容所でつらい思いをしているだろうに、とてもすごい気持ちの強い人だ。／・もし、私の時代にもフリードルさんみたいな人がいてくれたら、子供時代の思い出が少しはよくなっていたかもしれない。	きぼうをもって絵でみんなを楽ませて子どもたちを笑おにするってすごい、子どもをたのしませるさいのうがあるのかしら。	・「フリードル、よく、ゆう気がでたね〜。」／・フリードル、かわいそう。／・自分だけたすかるわけじゃないわ!! ！といって、自分がにげなかった。すごい!!	フリードル＝ディッカーは子どもたちのために命をかけて絵を教えた。／フリードルはたくしていたのだろう。子どもたちにも…。
5の場面	・大人の収容者たちは、よっぽど子供たちの笑顔がうれしかったのだろう。命がけで紙を探し、自分の服まで使ってくださいとわたすことは、フリードルさんがいなきやそんなことはおきなかったことだろう。／・子供達の当たり前感謝、気持ちをとりもどせて幸せだったでしょう。たった少しの絵の教室で子供達の心を養えるフリードルさんはとてもすごい人だったんでしょ。／・フリードルさん以外もとても命がけだったんでね。	紙やクレヨンがもうほぼないのにみんなでわけあうってえらい。わたしも保育園でみんなにこのことをおしえてみようかなあ。	・おとながやさしい。・子供たちは、クレヨンをつくぬりたいのにはいとわす。／・かわいそう。・すてきな絵。	子どもたちは絵をかくことであたりまえの生活をとりもどしていく。／フリードル以外の大人もかけていたのだなあ。子どもたちに希望を…。
6・7の場面	・子供達のたくさんの笑顔がなくなってしまうのはとても悲しかったでしょうね。／・そして、子供達の人生を養えたフリードルさんは「東行き」という列車ののってほしい、子供達は、分かっていたのでしょ。もう、この場所へは戻れないということ。毎日怖かったんだと思う心が痛すぎる。「いい明日」をむかえることができたのは、もともと1万5千人の中のたった百人だけだったなんて戦争はおかしい、とてもひどいことをする。こんなにもひどいことがあったということをもっともみなさんに知ってもらって絶対戦争はしてはいけないと分かってほしい。	未記入	・アウシュビッツへはこぼれる人たちがかわいそう。／・「送られた子供は一万五千人なのに、生きて、「いい明日」をむかえることができたのは、たった百人だけ。」かわいそうに。／・子供たちの絵四千枚がみつかった、よかったですね。／・いきたあかしをのこせてよかった。ー／・すてきな絵。・ビリーも口笛をふくやくをしていたんだ。いのちがけなのに。／・子供たちはがんばっていきただけー!!	・アウシュビッツ。人を殺すためのしせつか…。こんなにも子どもたちの笑顔をやぶってしまったのか。私たちは、本当に申しわけない。／・戦争が起こったことでこんなことが起こってしまうなんて、あの時は自分が生きるのに必死だった。だが私たちが戦っているうらで大勢の人が命を落としていたわけだ。ビリーさんはすごいなあ。亡くなるまでフリードルさんのことを語り続けたなんて。ビリーさんがいたから今こうして私がこの本を読むことができた。やはり戦争は起こしてはいけないなあ。

大学生調査では、表2の中で丸印を付した「戦争に反対している人」「軍人（ドイツ以外）」「政治家」「ユダヤ人」「お母さん」「編集者」の6名のプロフィールと反応が書き込まれた。軍人はアメリカ人であったり、編集者がいたりして、小学生のホロコーストの加害者と被害者という対立関係に対して、全体として温厚で第三者的な反応が示されていた。

(3) C 振り返り

まず、読者想定法を通していろいろな立場でこの話を読むことができたかを振り返ってもらった。「よくできた」が11名、「まあまあできた」が8名、「できなかった」が1名であった。振り返りは想定読者で読者反応を書いた感想、班でシェアした感想、読者想定法で学習した感想など、特に指定せずに自由に書いてもらった。表4に振り返り例を示す。

ほとんどすべての小学生が、想定した読者で読むことで、自分が持っている感想と異なる感想を持ったこと、またグループで違う想定読者の反応を聞き、面白く感じたことに触れていた。

5. 考察

(1) ジャンルとメディア

本調査では、「フリードルとテレジンの小さな画家たち」という説明的文章教材を使用した。このようないわゆる平和教材は、「戦争はひどい」「平和が大切だ」という画一的な反応を引き出しやすい。しかし読者想定法を使用すると、小学生は多様な読み方を経験できていた。このような歴史的な事柄を伝える説明的文章でも読者想定法は有効である。

本調査は教科書の説明的文章教材ではあったが、本が原典としてある。小学生も「この作品の本が店頭に並んでいるとしたら、どんな人が手にとって読むだろうか」という課題から、読者を想定することができていた。ノンフィクションの本というメディアでも、この方法は有効である

表4 振り返り例（小学生調査）

自己評価	振り返りの記述
よくできた (A)	<p>・自分以外の立場で話を読んだのははじめてでした。私は80歳のおばあちゃんという気持ちで読み、「戦争はひどい」ということより「みんなが笑顔になれてよかった」という思いのほうができました。本当にその人になっているような気持ちで楽しかったです。／友達との発表もおもしろかったです。「ドイツ兵」とか「ヒトラー」とかをやっている人もいて、ああこういう気持ちだったのか。などの思いも知れていい勉強になりました。／今まで「自分の立場以外」で話を読んだことがなくて、できるか心配だったけど、その人に本当になったかのように考えがどんどんできて自分でもびっくりして、楽しかったです。</p> <p>・最初この話を読んだときは、ヒトラーやドイツ兵にはらが立っていました。でも、この読者想定法でヒトラーやドイツ兵を想定して人の話を聞いて、戦そうはいけないことだけど、ドイツ兵やヒトラーは別の立場で、ちゃんと自分の考えがあるということを今まで考えていなかったの、この想定法で考えることができてよかったです。／私はシャイな性格を想定しました。最初はあまり戦そうにも興味を持ってはいませんでした。でも、最後には、戦そうに興味を持ちました。</p> <p>読者想定法を使ってみて、自分の感想ではなく、ちがう人になり、感想をもつことは、すごく難しかったです。／戦争をしたことのある人や、したことのない人では感想がちがうのでいろいろな人をもっとためてみたいです。／自分の感想は、ゆるせない・ふざけるな、などのもんくでしたが、この読者想定法をしてみて感想がかわりました。／逆に悪い人の人がどう思っているのかで感想がかわったりしているのがおもしろいです。</p>
まあまあ (B)	<p>・その想像した人の気持ちになって読むと、当時の出来事をけいけんしたような感じで読めました。／周りの人がどういう人物だろうか、どういう気持ちで感想をくれたのかか気になって、おもしろかったです。／自分を捨てて、その人になりきると、本当に戦争を体験したようなかんかくでした。</p> <p>おもしろかったことは、読者想定法のやり方です。その人になりきり、その人の気持ちを考えてみてすごくおもしろかったです。気付いたことは、みんながその人物になりきっていてすごかったです。また今度読者想定法をやりたいです。</p> <p>自分のいしをすてて、かくのがむずかしかったです。</p>
できなかった (C)	<p>人のを見るとみんなのがちがうからたのしかった。</p>

ことが予想される。物語的ノンフィクションである「フリードルとテレジンの小さな画家たち」を題材とした場合、様々な読み方を引き出すのに、読者想定法は有効であることが明らかになった。

読者想定法を使用して展開したこの授業が「メディア・リテラシーと連動した、実生活で生きて働く力として読書生活を前提にした読書活動」となっていることを確認するために、ここで、メディア・リテラシーの基本概念を検討したい。中村純子（2012）は、メディア・リテラシーの学習における「コア概念」として、「1 コード」「2 構成」「3 表象」「4 オーディエンス」「5 コンテキスト」の5つの概念を指摘している。また、中村純子（2010）は、これらの5つのコア概念をさらに平易に詳しく説明している。この5つの概念について、読者想定法と照らし合わせてみることにする。まず、中村（2012）によると、「2 構成」には、「①形式とジャンル」「②構造…人物・設定・展開」という下位項目を問題にしており、本研究が問題にしてきた「ジャンル」は「2 構成」に含まれていることが分かる。また、「4 オーディエンス」の下位項目には、「①オーディエンス像の分析」「②オーディエンスの反応」という2項目が設定されている。今回の読者想定法で行った読者想定は、まさに「①オーディエンス像の分析」であると言える。中村（2010）は、オーディエンスの分析について、「…対象とするオーディエンスを「性別、年齢層、職業、経験、考え方、価値観」といった要素で分析し…」（中村2010, p. 9, 下線引用者）と述べており、下線部が、読者想定法のワークシート（図4）の中央部「読者として想定する人物像」の「名前、年齢、性別、職業、出身地、おもな性格（人物像）」と重なっていることが認められる。さらに、「5 コンテキスト」については、中村（2012）では「①個人の経験のコンテキスト」と「②社会的文化的コンテキスト」の2つの下位項目が示されている。今回の調査で、児童は、想定読者のプロフィールには「戦争を経験をした時の年は、10才で、父・母・姉を亡くしている」や出身地「広島」などが見られ（表3）、まさに、個人の経験のコンテキストと社会文化的コンテキストを設定していることが伺える。一方で中村（2010）ではこれらのコンテキストが、表象だけでなく解釈にも作用することを図示している（中村2010, p. 8）。つまり、想定する読者で読者反応を示していくという活動は、コンテキストを設定して解釈を行っている活動ととらえることができる。以上のように、メディア・リテラシーで学習すべき5つの「コア概念」のうち、少なくとも3つの概念については、読者想定法の中で学習していることがとらえられた。このことは、読者想定法が「メディア・リテラシーと連動した」学習であることの証明になる。それと同時に、このようなメディア・リテラシーで学習すべき基本概念を、より分かりやすい形で児童に示していくことを研究する必要性も見えてきた。ちなみに、「フリードルとテレジンの小さな画家たち」を掲載している学校図書の国語教科書では、5年下でメディア・リテラシーの学習として、「オーディエンス」を学ぶことになっている。このような既習教材の利用も視野に入れる必要がある。引き続き、他のジャンルのテキストに対して、読者想定法はどのような効果があるのか、またどのような点を改善すればよいのか、探っていきたい。

(2) 小学生と大学生

本調査の結果、小学生であっても、読者を想定し、そのプロフィールを想像し、想定した読者になって読者反応を書くことは、十分に可能であることが明らかになった。また、そのことにより多様な読み方に触れたことを面白く感じていたことから、読者想定法は小学生に対しても有効な方法であるといえることができる。

小学生と大学生の反応は似通っていた。多少の違いを挙げるならば、小学生がより鮮明に二者の対立を際立たせようとしていたのに対し、大学生の方は多様な立場を示していたことがあげられる。これは、読む能力の発達だけでなく、社会経験の蓄積が作用していると考えられる。これも、上記のメディア・リテラシーのコア概念を踏まえるならば、コンテキストの想定の方に差が出るということである。現代社会の中で、どのようなジャンルのテキストが、どのようなコンテキストのもとに、どのようなメディアを通じて、読まれているのかということに目を向けさせるような指導を行うための工夫をさらに検討していきたい。

6. まとめと今後の課題

以上のように、物語的ノンフィクションというジャンルに属する説明的文章教材「フリードルとテレジンの小さな画家たち」を題材として、読者想定法を用いた学習指導を行うことは、小学校6年生でも可能であることが明らかになった。この題材はいわゆる平和教材で、「戦争はいけない」といった画一的な反応を得やすいが、読者想定法を使用することで、小学生はノンフィクションのテキストであっても読者の立場によって読者反応が異なることを経験・学習することができていた。加えて、現代社会におけるテキストとジャンル、またそのテキストが掲載されているメディアとそのメディアを使用している読者との関係について、指導の工夫が必要であることが示唆された。

今後の課題としては、さらにノンフィクションのジャンルを整理しつつ、どのようなジャンルやどのようなメディアを読むときに、読者想定法がどのような効果をもたらすのかを検討していきたい。また、社会経験の蓄積の問題をどのように指導法に盛り込んでいくか、検討を重ねていきたい。

文献

- 足立幸子(2015)「想定する読者の読者反応によるノンフィクションを読むことの指導—Jean Anne Clyde らの吹き出し法(subtexting)を手がかりとして—」『新潟大学教育学部研究紀要』第7巻第2号人文・社会科学編, 195-205.
- 足立幸子(2016)「読者想定法によるノンフィクションの読書指導」『新潟大学教育学部研究紀要』第8巻第2号人文・社会科学編, 133-141.
- Clyde, J. A., Barber, S. Z., Hogue, S. L. & Wasz, L. L. (2006). *Breakthrough to meaning: Helping your kids become better readers, writers, and thinkers*. Portsmouth, NH: Heinemann.

- Fountas, I. C. & Pinnell, G. S. (2012). *Genre study: Teaching with fiction and nonfiction books*. Portsmouth, NH: Heinemann.
- 金沢みどり(2006)『図書館情報学シリーズ7 児童サービス論』学文社
- 金沢みどり(2011)「多様な読書資料」全国学校図書館協議会「シリーズ学校図書館学」編集委員会『シリーズ学校図書館学4 読書と豊かな人間性』社団法人全国学校図書館協議会 pp. 43-58.
- 中村純子(2010)「放送分野におけるメディアリテラシー向上のための教材『情報娯楽番組（インフォテイメント）』～テキスト教材～〈平成22年3月版〉」（総務省「放送分野におけるメディアリテラシー向上のための教材の在り方等に関する調査研究」（解説資料））
http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/top/hoso/pdf/infotament_text.pdf（2016年6月1日アクセス）
- 中村純子(2012)「西オーストラリア州英語科カリキュラムにおけるメディア・リテラシー教育」『国語科教育』第72集, 103-107.
- 野村路子(1993)『テレビの小さな画家たち—ナチスの収容所で子どもたちは4000枚の絵をのこした—』偕成社
- 野村路子(2011)「フリードルとテレビの小さな画家たち」浜本純逸・大岡信・野地潤家・新井満ほか『みんなと学ぶ小学校国語六年下』学校図書 pp. 106-122.
- 野村路子(2011)『フリードル先生とテレビの子どもたち—ナチスの収容所にのこされた4000枚の絵』第三文明社
- 野村路子(2015)「フリードルとテレビの小さな画家たち」浜本純逸・大岡信・野地潤家・新井満ほか『みんなと学ぶ小学校国語六年上』学校図書 pp. 68-81.
- 執筆者非表示(2015)「オーディエンス」浜本純逸・大岡信・野地潤家・新井満ほか『みんなと学ぶ小学校国語五年下』学校図書 pp. 90-91.
- 寺井正憲(2015)「説明・解説」高木まさき・寺井正憲・中村敦雄・山元隆春編著『国語科重要用語事典』明治図書 p. 135